

英語科の授業内容に関する調査（Ⅱ）

— 専門教育・教職関連科目について —

鈴木 順和・大坪 勝郎・大塚 稔

A Survey on Subjects Taught in the English Department(Ⅱ): Special Subjects and Subjects Related to the Teaching Profession

Toshikazu SUZUKI, Katsuro OTSUBO and Minoru OTSUKA

SUMMARY

This survey was conducted to investigate students' opinion about special subjects and subjects related to the teaching profession in the English department. The questionnaire, which consisted of 40 items, was completed by 291 (83.4%) of 349 students in 1993.

The results were as follows:

1) Special subjects showed a higher ratio of attendance and were judged more interesting, useful, and necessary compared with general subjects. The reasons for choosing subjects were not only "compulsory subjects", but "necessary/useful subjects" or "interesting subjects".

2) There were wide differences among subjects concerning the degree of interest, usefulness and necessity. Students, however, rated most special subjects as useful and necessary compared with general subjects; especially, English communication subjects were consistently rated as most interesting, useful and necessary.

3) Only a few students took subjects related to the teaching profession, but those who did showed a higher ratio of attendance, and more interest, usefulness and necessity compared with general and special subjects. The reasons for choosing subjects were not only "compulsory subjects", but "necessary/useful subjects" or "subjects which they can't learn except in college". Students consistently rated almost all subjects as interesting, useful and necessary.

4) Students rated their own level of understanding and acquisition of, and satisfaction with, most special subjects as "moderate". The level of dissatisfaction, however, was higher than the degree of understanding and acquisition; especially, they were dissatisfied with teaching content and methods. Students gave subjects related to the teaching

profession, especially methodology, the highest ratings for degree of understanding, acquisition and satisfaction.

These results suggest that the most important key for good teaching consists in the teaching methods. The results also suggest that students wish the faculty to make teaching more interesting and understandable, and that the Communicative approach is more effective than Japanese traditional approach (the Grammatical approach) for our students.

英語科のカリキュラム改革と英語科学生の教育・指導に役立てるためにさまざまな調査をすることになった。この研究はそうした調査の1つである。最初に、英語科学生の英語能力および英語能力の努力目標を調べるために、英語検定試験の受験状況と今後の受験希望を調べた(鈴木ら, 1994)。その結果、何らかの英語検定試験を受けたことのある学生が、1年生と2年生を合わせて86.9%で、その内「英検(STEP)」の受験者は合計94.8%であった。受験希望については、90.6%の学生が何らかの英語検定試験を受ける予定にしており、その内99.5%の学生が「英検」の受験を希望していた。本学英語科の学生についてみると、英語検定試験に対する受験意欲や関心の高さが窺え、特に「英検」における受験率および受験希望が極めて高かった。中学時代からの学校での積極的な指導もあり、英語検定試験の王様ともいえるべき地位を占めていることが示された。

それ以外の英語検定試験については、TOEFLとTOEICの受験希望者が多く、それぞれ合計で13.5%と8.8%であった。これは、両試験共に1年生の方が2年生よりも受験希望者が多かった。実際の受験率は共に「英検」の3%以下であるが、近年話題になっている新しい英語検定試験に対する受験意欲や関心の高さが示された。特に、年齢が下がるにつれてTOEFLやTOEICに対する受験意欲や関心の高いことが示された。こうした実状を踏まえると、今後は英語検定試験というと「英検」といった時代ではなくなることが考えられる。また学生の英語運用能力を高める教育の一環として、「英検」やTOEFLなどの英語検定試験のためのカリキュラムを積極的に導入することも考慮すべきことが示唆された。こうした調査結果が反映され、現在では「英検」やTOEFL等の受験指導が実際に英語科において行われている。

ところで、短期大学の教育改革について論じるためには、「短期大学とは何か」について考えることが必要と思われる。そこで、まず短期大学設立の経緯についてみていくことにする。短期大学は戦後の学校教育制度改革において4年制大学に移行できなかった旧制専門学校を中心とする学校が、2年または3年の短期の高等教育機関として昭和25年に「暫定」的に認められた大学である。このように4年制大学の枠の中で暫定的な位置に置かれてきた後、昭和39年にようやく「恒久的な制度として大学制度の枠内に位置づけられることになる(学校教育法第109条)。更に、昭和50年の「短期大学設置基準」(昭和50年4月28日文部省令第21号)の制定によって従来の暫定的な“設置基準”からようやく脱皮し、今日の短期大学の拠り所が定まることになる。

4年制大学が「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第52条)を目的とするのに対して、短期大学においては「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成すること」(学校教育法第69条の2)を目的としている。これは、短期大学発足当時のわが国の経済的社

会の実情から、年限を短縮した専門的実務的職業人の育成、特に女子の高等教育の機会拡大を目的とした高等教育機関の設立という歴史的背景と関係がある。そのため、短期大学は「一般教育との密接な関連において、職業に必須な専門教育を授ける完成教育機関であり、同時に大学教育の普及と成人教育の充実を目指す新しい使命」を担った、研究機関というより高等教育大衆化のなかでの高等教育機関である、といえる。事実、平成3年の大学審議会答申『短期大学教育の改善について』の中でも、「短期大学は特に女子のための教育機関として発展し、女子の高学歴化に寄与している」と、短期大学の教育が評価されている。

こうした歴史的背景の下に、本学の英語科のカリキュラムも一般教育科目と専門教育科目および教職に関する科目からなっている。卒業に必要な単位数は、一般教育科目においては20単位、専門教育科目は46単位の合計66単位である。その他、教員免許（中学校教諭二種免許状）の取得を希望する学生は、教職に関する科目の中から20単位を取る必要がある。この3領域の授業科目が、英語科の教育の柱である。英語科のカリキュラム改革と英語科学生の教育・指導の改善のためには、この3領域の授業科目について調べる必要がある。そこで、一般教育科目・専門教育科目および教職に関する科目の受講状況や受講理由、授業の理解度・習得度・満足度、受講態度および出席状況について調べることにした。今回はその中の一般教育科目に関する調査報告であったが（鈴木ら、1997）、今回は残りの専門教育科目および教職に関する科目の調査結果の報告である。

方 法

調査対象者

本学英語科1年生173名、2年生176名の合計349名を対象に調査を行った。回収数は1年生が142名で回収率82.1%、2年生が149名で回収率84.7%、合計では291名で回収率は83.4%であった。その内1年生で1名の無効回答票があり、実質回答数の合計は290名で実質回答率83.1%であった。

調査時期

1993年11月9日から11月16日にかけて調査を行った。

調査方法

全部で60項目からなる調査用紙を用いて、全員出席する必修教科の時間に各学年・各クラス別に調査を行った（資料1に専門教育・教職関連科目の質問事項のみ記載している）。調査はその時間の始めに行い、その場で調査用紙の配布・回収をした。調査用紙は学年だけを明記する無記名のアンケート形式であった。合計60項目の質問事項は、大きく一般教育科目、専門教育科目、教職に関する専門教育科目、受講態度および出席状況の4つに分けられていた。なお、調査用紙の作成にあつては『短期大学の社会学』（伊藤、1991）を参考にした。

結果と考察

調査項目に従って、専門教育科目、教職に関する専門教育科目、受講態度および出席状況に分けて、質問項目毎に分析していくことにする。なお、下記の質問項目の番号は調査用紙に付けられた番号である。

Table 1 専門教育科目における受講状況・受講理由・満足度等の調査結果

専 門 教 育 科 目									
質 問 項 目	Q9-1		Q10		Q11		Q12		
科 目 分 野	受 講 率		関 心 度		有 益 性		必 要 性		
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	
英 語 学	94.9	97.2	36.3	30.4	46.6	40.7	73.4	64.5	
英 米 文 学	93.8	64.6	25.8	49.0	28.6	43.5	46.2	61.1	
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	97.9	73.7	68.7	64.2	68.0	61.1	81.8	76.5	
そ の 他	74.8	66.5	25.6	24.7	30.9	32.9	34.2	36.5	

質 問 項 目	Q9-2		Q15		Q16		
理 由 内 容	受 講 理 由		満 足 理 由		不 満 理 由		
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	
1	64.0	36.2	15.3	20.7	47.8	40.3	
2	40.3	43.6	18.2	20.0	33.3	35.6	
3	20.9	19.5	27.0	19.3	13.0	7.4	
4	9.4	11.4	40.1	41.4	52.9	28.9	
5	2.9	4.0	2.2	4.8	4.3	4.0	
6	41.0	42.3	19.0	29.7	8.7	31.5	
7	23.7	32.2	62.0	57.2	50.7	43.6	
8	7.2	3.4	41.6	37.2	16.7	27.5	
9	6.5	14.8	38.0	40.0	25.4	21.5	
10	66.2	65.8	13.9	10.3	21.0	20.1	
11	10.1	16.1	8.8	12.4	5.1	10.7	
12	1.4	4.0	5.1	1.4	13.8	8.1	
13	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	4.0	

質 問 項 目	Q14-1		Q14-2		Q14-3		
程 度	理 解 度		習 得 度		満 足 度		
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	
良 い	1	0.0	3.4	0.0	2.0	0.7	1.4
	2	41.1	43.5	41.8	35.1	25.5	35.1
ほ ど ほ ど	3	41.8	42.9	41.8	51.4	48.2	45.9
	4	14.9	8.2	14.2	8.8	21.3	14.9
悪 い	5	2.1	2.0	2.1	2.7	4.3	2.7

I. 専門教育科目

Q9-1 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

英語学6科目、英米文学6科目、英語コミュニケーション4科目は卒業必修のために、1年生・2年生共に90%を超える受講率を示した。「その他」の科目はすべて選択科目であるが、秘書士の資格必修科目ではいずれも90%を超えて受講していた。しかし、卒業必修ないし資格必修以外の選択科目は4～89%と科目間の受講率に大きな開きがあり、2年生でも14科目中9科目は30%以下の受講率であった。卒業や秘書士の資格認定に関係のない科目では、ほとんど受講していないことが示されている。

Q9-2 受講した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1年生・2年生を合わせた受講理由のベスト3は、「必修科目で止むを得なかったから」「勉強しなくてはならないと思ったから」「勉強すると将来役に立つと思ったから」であった。これ以外に30%を超えたものは、1年生・2年生共に「科目そのものに興味・関心があったから」と2年生の「大学でしか学べない科目だったから」であった。学年の違いで、1年生と2年生では受講科目数にかなりの差がみられるが、受講理由として選ばれたものは共通している。専門教育科目については、義務だけでなく、学習意欲・興味・関心や必要性・有益性から選択していることが示されている。

Q10 興味深く、面白いと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

英語学では、1年生では英文法Ⅰ・Ⅱと英語音声学Ⅰが30%を超え、2年生では英語音声学Ⅰ・Ⅱが30%を超えていた。2年生では、英米文学ではすべての教科目が30%を超えていたが、1年生では英文講読Ⅰ・Ⅱだけは10%未満であった。英語コミュニケーションでは、1年生・2年生共にすべての科目が50%を超えていた。「その他」では科目間の開きが大きく、2年生では時事英語Ⅱ・秘書実務・英文タイプⅡが30%を超え、児童英語教育と英文タイプⅠが50%を超えていた。特に、児童英語教育は80%を占めており、最も興味・関心の高い科目であった。1年生では、秘書実務が40%を、英文タイプⅠが50%を超えていた。これ以外は、いずれも30%未満であった。2年生について分野別にみていくと、英語コミュニケーションが平均64%で最も高く、次いで英米文学の49%、英語学の30%、「その他」の25%となる。英語コミュニケーションや英米文学など、外国人教員の授業の関心度が高いことを示している。また、英文タイプへの関心度が高いことを示している。

Q11 役に立った、為になったと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

英語学では、2年生の英文法Ⅱを除き、すべての教科目が30%を超えていた。英米文学では、1年生の英文講読Ⅰ・Ⅱを除き、すべての教科目が30%を超えていた。英語コミュニケーションでは、1年生・2年生共にすべての教科目が50%を超えていた。「その他」では科目間の開きが大きく、2年生では時事英語Ⅱ・文書管理・実務法規・簿記会計が30%を超え、児童英語教育・秘書実務・英文タイプⅠ・英文タイプⅡが50%を超えていた。特に、児童英語教育は87%と、最も有益な科目とされた。1年生でも、秘書実務と英文タイプⅠが50%を超えていた。これ以外は、いずれも30%未満であった。2年生について分野別にみていくと、英語コミュニケーションが61%で最も高く、次いで英米文学の44%、英語学の41%、「その他」の33%となる。ここでも英語コミュニケーションや英米文学など、外国人教員の授業の有益性が高いことを示している。また、英文タイプの有益

性の高いことが示されている。

Q12 専門教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

英語学では、1年生・2年生共にすべての教科目が50%を超えていた。英米文学では、1年生の英文講読Ⅰ・Ⅱを除き、すべての教科目が50%を超えていた。英語コミュニケーションでは、1年生・2年生共にすべての教科目が70%を超えていた。「その他」では科目間の開きがここでも大きく、2年生では秘書実務・簿記会計・英文タイプⅠ・英文タイプⅡが50%を、時事英語Ⅱが70%を超えていた。1年生でも、秘書実務と英文タイプⅠが50%を超えていた。これ以外も、ほとんどが30%を超えており、20%以下はわずか4科目だけであった。2年生について分野別にみていくと、英語コミュニケーションが77%と最も高く、次いで英語学の65%、英米文学の61%、「その他」の37%となる。ほとんどの専門教育科目が専門教養として必要である、という認識の高いことが示されている。その中でも特に、外国人教師による英語コミュニケーションの必要性が高かった。

Q13 その他、専門教育科目として希望の教科目があれば（ ）に書いてください。

1年生で7名、2年生で6名の学生がその他の教科目を希望していたが、教科目はさまざまであった。ほとんどの学生が現在開講されている科目で十分と考えているようである。

Q14-1 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

1年生でも2年生でも、「半々くらい」と「大部分の科目はよく理解できた」を合計すると80%を超えており、ほとんどの学生が自分では大体授業内容を理解できたと回答している。しかし、1年生では「半々くらい」と回答した者が42%と最も多いのに対して、2年生では「大部分の科目はよく理解できた」とした者が44%と最も多かった。また、1年生では「どの科目も理解できた」とする者はなく、1年生の17%は「限られた科目しか理解できなかった」と回答したのに対して、2年生では「どの科目も理解できた」とした者が3%おり、「限られた科目しか理解できなかった」と答えたのは10%であった。2年生の方が、理解度が高いと認識しているものが多いことを示している。授業に慣れてきて次第に理解度が高まっていることも、その理由の1つと考えられる。

Q14-2 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

習得度については、1年生・2年生共に「半々くらい」と回答した者が一番多く、「大部分の科目は習得できた」と合計すると80%を超えている。また、習得が不十分とする学生は、1年生が16%であるのに対して2年生は12%と、理解度に近い数字を示す。しかし、習得度が良いとする学生の割合は、2年生が37%なのに対して1年生は42%と、1年生の方が高い。理解度と習得度の結果が逆になっており、習得度と理解度の認識間に多少の乖離がみられる。

Q14-3 授業内容の満足度はどの程度ですか。

満足度についても、1年生・2年生共に「半々くらい」と回答した者が最も多く、「大部分の科目は満足している」と合計すると70%を超えているが、理解度や習得度に比較してその割合が低い。更に、不満としている者が1年生で26%、2年生で18%おり、理解度や習得度の不十分さを認識している学生の割合より7~10%高い数字を示している。理解できない、授業が身につかない、といった理由以外で授業に不満をもっている可能性のあることを示唆している。

Q15 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

1年生では、「授業内容が楽しく、興味深かった」「科目そのものに興味・関心があった」「授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった」がベスト3であった。2年生では、「授業の内容が楽

しく、興味深かった」「授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった」「将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった」がベスト3であった。この他、30%を超えていたのは、1年生では「将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった」と2年生の「科目そのものに興味・関心があった」で、満足の理由は1年生・2年生とも共通していた。授業の理解度・満足度は、授業内容や授業方法と深い関係があることを示している。

Q16 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

1年生では、「教員の教え方に工夫が足りなかった」「科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった」「授業内容が難しかった」がベスト3であった。2年生では、「科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった」「授業内容が難しかった」「授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった」がベスト3であった。この他、30%を超えていたのは、1年生の「授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった」と2年生の「受講者数が多すぎて、私語が多く気分的に集中できなかった」で、不満足の理由も1年生・2年生とも共通している。授業の不満についても、授業内容や授業方法に関係が深いことを示している。ただ、2年生については私語の多さに不満が持たれている。

II. 教職に関する専門教育科目

カリキュラムの編成上、教職に関する科目は1年生後期から開設されており、調査時点では実質的に1年生は教職関連科目を受講していない状況であった。そのため、ここでの分析はQ17を除いて2年生の結果を対象としている。なお Table 2の科目分野は、教育学には教育本質論・教育哲学・教育行政学・教育調査・教育方法論・表現教育論の6科目が含まれ、心理学は中等教育心理学のみを、教科教育法は英語科教育法のみを含む。「その他」には道徳教育論・特別活動論・教育相談が含まれ、教育実習には教育実習前後指導・教育実習が含まれている。

Q17 教員免許を取得する予定がありますか。

1年生で「はい」と回答した者は33名（23%）で、「いいえ」と回答した者は108名（77%）であった。2年生で「はい」と回答した者は18名（12%）で、「いいえ」と回答した者は131名（88%）であった。ほとんどの学生が教員免許取得を希望してはず、しかも1年生時には教員免許取得を希望していた学生も、2年生になると実際には教職関連科目を受講しなくなる可能性があることを示唆している。

Q18-1 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

13科目開設されている中で、平均10科目受講し、受講率の平均も77%と高い。なお、20%以下の低い受講率を示した教育哲学・教育調査・表現教育論は、2年生後期に開設されており、その中で表現教育論は受講者がいなかった。全科目のうち7科目が100%の受講率で、2科目が90%を超え、1科目が80%を超えていた。これを分野別にみていくと、心理学・教科教育法・「その他」・教育実習の7科目は免許必修であり、教育学はすべて選択必修で3科目が免許取得に必要なことと開設時期にあると考えられる。

Q18-2 受講した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

受講理由のベスト3は、「勉強すると将来役に立つと思ったから」「勉強しなくてはならないと思っ

たから」「大学でしか学べない科目だったから」「必修科目で止むを得なかったから」で（3番目と4番目は同率である）、いずれも30%を超えていた。教職関連科目で「将来役に立つ」とした学生は56%で、一般教育科目（14%）や専門教育科目（42%）より高く、教職関連科目で「必修科目で止むを得ず」とした学生は33%で、一般教育科目（61%）や専門教育科目（66%）よりかなり低い。こうした結果を踏まえると、教職関連科目は学習意欲や有益性・必要性といった積極的な理由で受講していることが窺える。

Q19 興味深く、面白いと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

受講者のいなかった表現教育論と中等教育心理学を除き、すべての教科目が30%を超えていた。

Table 2 教職関連科目における受講状況・受講理由・満足度等の調査結果

教 職 に 関 す る 専 門 教 育 科 目				
質 問 項 目	Q18-1	Q19	Q20	Q21
科 目 分 野	受 講 率	関 心 度	有 益 性	必 要 性
教 育 学	50.9	42.3	32.6	62.3
心 理 学	100.0	11.1	16.7	44.4
教 科 教 育 法	94.4	88.2	88.2	76.5
そ の 他	100.0	50.0	38.9	72.2
教 育 実 習	100.0	61.1	66.7	80.6
教 職 科 目 全 体	76.9	48.1	42.4	67.1

質 問 項 目	Q18-2	Q23	Q24
理 由 内 容	受 講 理 由	満 足 理 由	不 満 理 由
1	38.9	5.9	50.0
2	27.8	11.8	50.0
3	27.8	52.9	0.0
4	27.8	76.5	72.2
5	11.1	5.9	5.6
6	55.6	17.6	11.1
7	33.3	52.9	44.4
8	0.0	23.5	16.7
9	11.1	35.3	5.6
10	33.3	5.9	0.0
11	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	5.6
13	16.7	0.0	5.6

質 問 項 目	Q22-1	Q22-2	Q22-3	
程 度	理 解 度	習 得 度	満 足 度	
良 い	1	11.1	16.7	16.7
	2	61.1	44.4	50.0
ほ ど ほ ど	3	16.7	22.2	16.7
	4	0.0	0.0	5.6
悪 い	5	11.1	16.7	11.1

全受講者の48%が興味深く、面白いと感じており、特に教育本質論・教育哲学・教育行政学・英語科教育法・特別活動論・教育相談・教育実習は5割を超えていた。その中でも、英語科教育法と教育実習は80%を超えており、非常に面白かったと感じていることを示す。分野別にみると、専門教育の英語コミュニケーション(64%)や一般教育の外国語科目(61%)、人文の分野(55%)に次いで、専門教育の英米文学(49%)と変わらない割合を示している。教職関連科目は、全体的に授業の関心度が高いことを示唆している。

Q20 役に立った、為になったと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

受講者のいた12科目中で9科目が30%を超えており、教育本質論・教育哲学・教育行政学・英語科教育法・教育実習は50%を超えていた。特に、英語科教育法と教育実習は80%を超えており、非常に役に立った、為になったと感じていることを示す。分野別にみると、全受講者の42%が役に立った、為になったと感じており、一般教育の総合科目(人間の研究)の67%、専門教育の英語コミュニケーションの61%に次いで、専門教育の英米文学(43%)と変わらない割合を示す。教職関連科目は、全体的に授業の有益性が高いと感じていることを示唆している。

Q21 教職の専門教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

受講者のいなかった表現教育論および中等教育心理学を除き、すべての教科目が50%を超え、教育本質論・教育哲学・教育行政学・英語科教育法・特別活動論・教育相談・教育実習前後指導・教育実習は70%を超える高率を示した。分野別にみると、全受講者の67%が必要な教科目としており、専門教育の英語コミュニケーションの77%、一般教育の総合科目(人間の研究)の72%に次いで高く、全体的に授業の必要性が高いと認識していることを示唆している。

Q22-1 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

理解度については、「どの科目もよく理解できた」の11%と「大部分の科目はよく理解できた」の61%を合わせると、72%を占める。大部分の学生がほとんどの授業はよく理解できたと回答していることを示す。これは一般教育科目(22%)や専門教育科目(47%)と比較するとかなり高く、少なくとも学生自身は、教職関連科目は授業の理解ができたと認識していることを示している。なお、回答の4と5の合計である「理解できなかった」とする者は、11%であった。

Q22-2 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

習得度については、「どの科目も十分習得できた」(17%)と「大部分の科目は習得できた」(44%)を合計すると60%を超えており、多くの学生が授業内容を習得できたと回答している。回答の4と5の合計である「習得できなかった」とする者は、17%であった。理解度に比べると、習得できたとする者の割合が低く、習得できなかったとする者の割合が高い。理解しても十分に習得できなかった、と感じている学生がいることを示す。しかし「習得できた」とする学生の割合は、一般教育科目(21%)や専門教育科目(37%)と比較するとかなり高く、少なくとも学生自身は、教職関連科目の習得度は高いと認識していることを示唆する。

Q22-3 授業内容の満足度はどの程度ですか。

満足度についても、「どの科目も満足している」(17%)と「大部分の科目は満足している」(50%)を合計すると67%であり、大部分の学生が授業に満足していることを示す。なお、不満としている者の合計は17%であった。教職関連科目については、理解度・習得度・満足度は比較的似かよった傾向を示している。理解度の高い学生は、授業内容がよく習得でき、授業の満足度も高い

ことが窺える。満足度についても、一般教育科目（21%）や専門教育科目（37%）に比較してその割合がかなり高く、学生自身はほとんどの教職関連科目に満足していることを示唆している。

Q23 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

「授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった」「授業内容が楽しく、興味深かった」「教員の熱意が感じられた」がベスト3であった。その他、30%を超えていたのは「将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった」で、授業の理解度・満足度は授業方法や授業内容と関係の深いことを示している。特に、「授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった」は77%を占めており、授業方法が学生の理解や満足に大きな影響を与えることが窺える。なお「教員の熱意が感じられた」は、一般教育科目や専門教育科目では上位にあがっていない理由である。

Q24 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

「教員の教え方に工夫が足りなかった」「授業内容が難しかった」「授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった」がベスト3であった。その他、30%を超えていたのは「科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった」で、授業の不満についても授業方法や授業内容と関係の深いことを示している。特に、「教員の教え方に工夫が足りなかった」とする者は72%もおり、授業に対する不満の最も大きな要因は授業方法であることを示唆している。

Ⅲ. 受講態度および出席状況

1) 専門教育科目

Q34 専門教育科目におけるあなたの受講態度はどのようですか。

1年生・2年生共に「普通」と回答した者が一番多く、過半数を占めていた。普通以上には熱心な方とする者の合計は1年生で93%、2年生で91%であり、自分では比較的眞面目に熱心に受講している、とほとんどの学生が考えていることを示す。

Q35 あなたは専門教育科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

1年生・2年生共に「やっている科目とやらない科目が半々」と回答した者が最も多く、それぞれ47%と40%であった。あまりやらないとする者の合計は1年生で33%、2年生で51%であり、かなりの学生が予習や復習をほとんどやらないことを示す。しかも、学年が上がるにつれて予習・復習をやらなくなることが示唆される。

Q36 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか（複数回答可）。

30%を超えて回答されたものは、1年生・2年生共に「友人同士で議論する」「先輩や友人に教えてもらう」であり、それぞれ50%台と40%台であった。「教師に個人的に質問する」は3番目に高く、1年生で21%、2年生で27%を占め、「教室で質問して理解に努める」を合わせると、それぞれ30%と34%であった。専門教育科目では、友人・先輩だけでなく教員にも質問をよくすることが示唆される。

Q37 あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

1年生では「まったくない」と回答した者が最も多く、48%を占めるのに対して、2年生では「たまに行くことがある」と回答した者が最も多く、47%を占めた。良くあるいは時々でも行くこ

とがあるとした者は6～8%と少ないが、1年生でも「たまに行くことがある」が40%を占めており、専門教育科目では教員に質問や相談をする機会を持つことがあることを示唆している。更に、それは1年生より2年生に多く、学年が進むにつれて教員への質問や相談を積極的にすることが窺える。

Q38 あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いますか。

1年生・2年生共に「多少は話し合いや相談をしたいと思う」とした者が最も多く、それぞれ49%と51%であった。次に多かったのは「特定の教員に対して、大いに話し合いや相談をしたい」とする者で、1年生で25%、2年生で19%であり、「まったく思わない」は1年生で10%、2年生で11%であった。何らかの教員と大いに話し合いや相談をしたいとする者は、1年生で41%、2年生で38%を占め、学生自身は教員に相談したり話し合ったりしたいと思っていることが示されている。また多くの教員との話し合いや相談を望む者は、1年生で10%、2年生で15%であり、1年生より2年生の方が、より多くの教員と話し合いたいという気持ちが強いことを示唆している。

Q39 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

1年生・2年生共に「友人との共同学習」「視聴覚教材の利用」「教員による講義や模範演技」が

Table 3 専門教育科目における受講態度および出席状況に関する調査結果

		専 門 教 育 科 目									
質 問 項 目		Q34		Q35		Q37		Q38		Q40	
程 度	受 講 態 度	予・復習		相 談 頻 度		相 談 希 望		出 席 状 況			
		1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生		
熱 心	1	7.1	4.9	1.4	0.0	0.0	0.0	6.5	3.5	49.3	52.1
	2	30.7	33.6	18.6	9.1	5.7	7.7	10.1	15.4	42.9	36.6
普 通	3	55.0	52.4	47.1	39.9	40.0	46.9	24.5	18.9	5.0	7.7
	4	5.0	9.1	19.3	30.1	47.9	38.5	48.9	51.0	0.7	1.4
不 熱 心 わ か ら な い	5	2.1	0.0	13.6	21.0	6.4	7.0	10.1	11.2	1.4	0.0
	6									0.7	2.1
質 問 項 目		Q36		Q39		質 問 項 目		Q41		Q42	
方 法 の 内 容		勉 強 方 法		授 業 方 法		理 由 内 容		出 席 理 由		欠 席 理 由	
		1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生
	1	8.6	7.0	36.8	24.1	1	58.7	41.0	10.5	9.6	
	2	21.4	26.6	14.0	10.6	2	37.7	42.4	27.8	45.6	
	3	42.9	42.0	31.6	31.2	3	24.6	28.8	18.0	24.3	
	4	52.1	54.5	14.0	23.4	4	31.9	33.8	41.4	39.7	
	5	20.7	23.1	10.3	12.8	5	13.0	15.8	9.8	4.4	
	6	18.6	16.1	29.4	32.6	6	26.1	25.9	29.3	8.8	
	7	3.6	4.9	24.3	19.1	7	30.4	38.8	18.8	27.9	
	8	0.0	0.0	2.2	2.8	8	17.4	18.0	46.6	36.8	
						9	47.8	39.6	6.0	3.7	
						10	4.3	3.6	25.6	23.5	
						11	2.2	0.7	34.6	29.4	
						12			9.0	15.4	

ベスト3であったが、優先順位は異なっている。この中で30%を超えたものは、1年生では「教員による講義や模範演技」と「友人との共同学習」で、2年生では「視聴覚教材の利用」と「友人との共同学習」であった。専門教育科目では、友人との共同学習が授業内容の理解・習得に重要な役割を果たしていることを示す。また、視聴覚教材の利用は授業の理解・習得を容易にすることが窺える。

Q40 専門教育科目の授業における出席状況を、ありのままに教えてください。

1年生・2年生共に「9割以上の出席率」とする者が最も多く、それぞれ49%と52%であった。「どの科目でも大体3分の2以上の出席はしている」とする者が、1年生で合計92%、2年生で合計89%であり、ほとんどの学生が受験資格である出席時間は守っていることを示している。しかし、受験資格の出席率も維持していない学生が、1年生・2年生でそれぞれ7%と9%いた。回答者数が学生総数の83%であり、比較的眞面目に出席している学生の中で1割弱の者が、専門教育科目でさえ受験資格以下の出席率があると回答しており、何らかの対策を立てる必要のあることを示唆している。

Q41 よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1年生・2年生共に「勉強しなくてはならないと思ったから」「規則（3分の2以上の出席）があったから」「科目そのものに興味・関心があったから」がベスト3であった。これ以外に30%を超えたものは、1年生・2年生共に「出欠が厳しく取られたから」「講義内容が面白く、勉強が楽しかったから」であった。出席の主な理由は規則や義務感からであることを示しているが、専門教育科目では授業への関心や授業内容の魅力がもう1つの大きな理由になっていることを示唆している。

Q42 欠席や遅刻をする主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1年生では「病気などで身体の調子が良くなかったから」「授業内容に魅力がなかったから」「なんとなく、特に理由もなく」がベスト3で、いずれも30%を超えていた。2年生では「科目そのものにあまり興味・関心がなかったから」「授業内容に魅力がなかったから」「病気などで身体の調子が良くなかったから」がベスト3で、いずれも30%を超えていた。欠席や遅刻の理由は、授業の魅力や興味・関心の不足と病気等の身体面の不調であることを示している。勉強が嫌いとかアルバイトが忙しいという者は1割以下であり、学習への意欲不足から生じているわけではないことを示唆している。ただし、2年生では「出欠を取らないから」（28%）や「授業が難しかったから」（24%）が1年生に比較して高く、学習意欲の不足したあるいは学習困難な学生が、学年が上がるにつれて一層多くなっていることを窺わせる。

2) 教職に関する専門教育科目

前述したようにカリキュラムの編成上、教職に関する専門教育科目は1年生後期から開設されており、調査時には実質的に1年生は教職関連科目を受講していない状況であった。そのため、こどもでも2年生の結果を対象としている。

Q43 教職に関する科目におけるあなたの受講態度はどのようなですか。

「熱心なほうである」と回答した者が47%と一番多く、熱心であるとする者の合計は71%であった。これは一般教育科目（26%）や専門教育科目（39%）と比較するとかなり高い。因に不熱心とする者は合計6%しかいず、ほとんどの学生が熱心に受講していることを示唆している。

Q44 あなたは教職に関する科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

「やっている科目とやらない科目が半々」と回答した者が41%と最も多く、半々以上にやっている学生が65%を占める。「どの科目もあまりやらない」とする者は18%であり、一般教育科目(35%)や専門教育科目(21%)では2年生になると予習・復習をやらなくなる傾向があるのに対して、教職関連科目は比較的眞面目に予習・復習をやっていることが示唆される。

Q45 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか(複数回答可)。

「先輩や友人に教えてもらう」「友人同士で議論する」が最も多く、共に41%を占めた。次に、「教員に個人的に質問する」「参考書などを読んで調べる」が共に29%であった。何らかの形で教師に質問する学生が35%おり、友人同士で学び合うだけでなく、積極的に教師に質問していることが示唆される。

Q46 あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

「たまに行くことがある」が最も多く、77%であった。「行こうと思わない」学生はいず、何らかの質問をしている学生が88%を占めており、ほとんどの学生が授業について教員に質問や相談をしていることが示されている。これは一般教育科目(46%)や専門教育科目(55%)と比較するとかなり高く、教職関連科目では学生の質問や相談の多いことが窺える。

Table 4 教職関連科目における受講態度および出席状況に関する調査結果

教 職 に 関 する 専 門 教 育 科 目						
質 問 項 目	Q43	Q44	Q46	Q47	Q49	
程 度	受 講 態 度	予 ・ 復 習	相 談 頻 度	相 談 希 望	出 席 状 況	
熱 心 1	23.5	5.9	0.0	11.8	82.4	
2	47.1	17.6	11.8	29.4	11.8	
普 通 3	23.5	41.2	76.5	35.3	5.9	
4	0.0	17.6	11.8	23.5	0.0	
不 熱 心 5	5.9	17.6	0.0	0.0	0.0	
わ か ら な い 6					0.0	

質 問 項 目	Q45	Q48	質 問 項 目	Q50	Q51
方 法 の 内 容	勉 強 方 法	授 業 方 法	理 由 内 容	出 席 理 由	欠 席 理 由
1	5.9	17.6	1	58.8	6.7
2	29.4	5.9	2	35.3	26.7
3	41.2	29.4	3	29.4	40.0
4	41.2	35.3	4	52.9	33.3
5	29.4	35.3	5	41.2	0.0
6	5.9	41.2	6	23.5	6.7
7	0.0	35.3	7	17.6	40.0
8	0.0	0.0	8	5.9	33.3
			9	23.5	6.7
			10	0.0	20.0
			11	0.0	20.0
			12		6.7

Q47 あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いますか。

「特定の教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う」が最も多く、35%を占めた。次に、「多くの教員に対して、大いに話し合いや相談をしたい」とする者が多く、29%を占めており、何らかの形で教員に対して大いに相談や会話を望む学生が77%いた。「まったく思わない」とする者はなく（一般教育科目では15%、専門教育科目では11%いる）、教職関連科目について学生自身は教員に相談したり話し合ったりしたいと望んでいることが示唆される。

Q48 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

「視聴覚教材の利用」「宿題・レポートの作成」「学生による発表や討論」「学生の実験・実習・実技」が上位を占め、いずれも30%を超えていた。教員がさまざまな形で授業を工夫していることが、授業内容の理解・習得を高めていることを示唆している。なお、「宿題・レポートの作成」および「学生による発表や討論」は、一般教育科目や専門教育科目では上位にあがっていない授業方法である。

Q49 教職に関する科目の授業における出席状況を、ありのままに答えてください。

「9割以上の出席率」と回答した者がほとんどで82%を占めた。「どの科目も大体3分の2以上の出席はしている」とする者との合計は94%で、ほとんどの学生が受験資格である出席時間は守っていることを示す。「9割以上の出席率」と回答した者は、一般教育科目では47%、専門教育科目では52%であり、教職関連科目では大部分の学生がどの科目でも良好な出席をしていることが窺える。

Q50 よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

「勉強をしなくてはならないと思ったから」「講義内容が面白く、勉強が楽しかったから」「教員に好感がもてたから」がベスト3である。これ以外に30%を超えたのは「科目そのものに興味・関心があったから」で、出席の主な理由は授業や教師の魅力によることが示されている。Q48の回答と考え合わせると、授業内容や教授方法の工夫が出席を促している大きな理由の1つであることを示唆している。

Q51 欠席や遅刻をする主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

「授業が難しかったから」「出欠を取らないから」「授業内容に魅力がなかったから」「病気などで身体の調子が良くなかったから」がベスト3で（3番目と4番目は同率である）、いずれも30%を超えていた。欠席や遅刻をする理由は、学習の困難さや学習の意欲不足にあることが窺える。なお「教職に関する専門教育科目」の回答と考え合わせると、それは特定の教科目に集中している可能性が高いことを示唆している。

全体的考察

専門教育科目の授業についてみると、一般教育科目とは異なり、義務だけでなく、学習意欲や興味・関心、有益性・必要性から受講していることが示されている。しかし、関心度・有益性・必要性については科目間の開きが大きく、「その他」の分野でそれは顕著であった。ただ一般教育科目との違いは、「その他」の分野を除けば、興味・関心は必ずしも高くなくても、有益性や必要性は高いと感じ、特に必要性を強く感じていることである。また英語コミュニケーションと「その他」

については、関心度・有益性・必要性の結果が一致しており、これは一般教育科目においてはみられなかったことである。しかも、英語コミュニケーションはいずれも最も高い数字を示しており、英会話能力の向上に対する関心が高く、有益性や必要性を強く認識していることが窺える。更に、多くが外国人教員によって行われる、英語コミュニケーションや英米文学（特に英文講読・英文演習）の分野がより高い関心や有益性・必要性を示しており、外国人教員の授業に対する関心度・有益性・必要性が高いことを示唆する。専門教育は一般教育に比較して学生の受講率や興味・関心、有益性・必要性が高く、これは本来学ぼうとして入学してきた学習動機や学習意欲が反映した結果と考えられる。

授業の理解度・習得度・満足度については、多くが「ほどほど」だとしている。その中で2年生の方が、理解度が高いと認識しており、外国人の授業に慣れてきて次第に理解度が高まっていることを示唆する。しかし、1年生と2年生では理解度と習得度の認識間に多少のズレがみられ、1年生の場合そのまま回答を受け入れることに疑問がもたれる。しかも、満足度は理解度や習得度に比べて低く、ほどほど授業が理解でき、ほどほど身についたとしている学生でも、授業がつまらないと感じたり、教師の教え方に不満を感じたりしている。授業に対する理解や満足の理由をみていくと、授業内容や授業方法と関係が深いことを示しており、現在の授業内容や授業方法に何らかの不满を持っていることが示唆される。また2年生では「私語の多さ」に不満がみられており、騒がしい授業風景の中で、自分もその1人になることがあったとしても、他人の私語には不満をもつことが窺われる。ところで、専門教育科目の中で人気のある科目群は相対的に受講者の数が少なく、授業の理解度・習得度・満足度が高い。こうした点を考慮すると、多人数の授業において生じやすい個人に応じた教育の困難さや指導の不徹底さが、授業の理解や習得を困難にし、学生の不満の大きな要因となっているものと思われる。より少人数の授業や学生の適性・ニーズに応じた教育の必要性が示唆される。

安藤ら（1992）の研究によると、1970年代以降ヨーロッパを中心に考えられてきたコミュニケーション能力の育成に強調点が置かれた教授法「コミュニケーション・アプローチ（Communicative Approach:CA）」とわが国の伝統的な文法中心的教授法「文法的アプローチ（Grammatical Approach:GA）」とを比較したところ、一般知能の低い学習者に対してはCAが補償的に効き、また高い学習者に対してはGAで特恵的に効く、という適性処理交互作用（Aptitude-Treatment Interaction:ATI）が見いだされている。適性処理交互作用とは、どの指導法や学習法が有効かは生徒の適性によって異なるという発想から生まれた、生徒の適性に合わせて教授法を変化させるシステムをいう（Cronbach, 1975）。また「補償的に効く」とは、教授法が適性の低さを補うように効く反面、適性の高い者に対して妨害的に働くことをいう。一方「特恵的に効く」とは、教授法が適性を利用して特に適性の高い者に有利に働くことをいう。

このATIのパラダイムを使って、そのほか自我関与、内向性－外向性、不安、動機づけ、認知スタイル、教師などによって英語教育の効果の異なることが示唆されている（安藤ら、1992；倉八ら、1992；倉八、1993；1994；1995）。特に、学習者の知的適性（一般知能、言語能力、英語学力、記憶容量など）や性格特性（内向性・外向性、不安など）、学習者と教師の関係が重要な要因と考えられている（安藤ら、1992）。例えば、自我関与度の高いCAでは知的適性の低い者に補償的に効き、内発的動機づけを高め、伝統的な教授法で脱落しがちな学習者に対して有効な学習環境を与えることになる、としている（安藤ら、1992）。またCAは、積極的・外向的学習者や英語に対す

る不安の低い学習者にとっては特惠的に効き、英語学力の低い者や不安の高い者には補償的に効くことが見いだされている（倉八ら，1992；倉八，1993；1994；1995）。つまり，GAでは知的能力が学習意欲や学習成果を規定しているのに対して，CAは知的能力ではなく，態度・性格要因が学習意欲を規定し，学習意欲を媒介として学習が促進される，ということである。教師については，外国人講師（Assistant English Teacher:AET）を入れた授業（Team Teaching:TT）の方が日本人教師だけの授業より学習意欲が高く，より高い学習成果が得られたという（倉八，1993）。この他，CAは学習意欲を高める傾向があり（倉八ら，1992；倉八，1993），GAでもコミュニケーション活動を導入することにより学習意欲が高まることを見いだしている（倉八，1994）。

こうした研究結果を踏まえると，同じ英語の専門教育科目でも文法的授業での評価が低く，コミュニケーション科目での評価の高いことは，学生の適性や授業方法に関係があることを示唆する。本学の英語科に入学してくる学生の多くは，知的適性が低く，また自我関与や学習意欲が低い可能性があり，英語に対する不安が強いものと思われる。こうした学生に対しては，その適性に応じた教授方法を採らないと学習効果が上がらないものと考えられる。専門教育科目の授業の理解度・習得度・満足度と授業内容・授業方法が関係の深いことが示されているのは，適性或教師との関係も影響していると思われる。

教職関連科目の授業についてみると，教職希望者は少ないが，授業に対する熱意や意欲，関心度・有益性・必要性は全般的に高いことを示している。しかも，一般教育科目や専門教育科目と異なるのは，いずれの分野も関心度・有益性・必要性の結果の一致度が高いことである。つまり，関心の高い科目ではそれだけ有益で必要だと認識していることである。そのため，授業の理解度・習得度・満足度は一般教育科目や専門教育科目に比べてかなり高く，いずれも6～7割の学生がよく理解でき，よく身につけ，満足していると回答している。その理由としては，「授業がよく工夫され，教員の教え方がよかった」「授業内容が楽しく，興味深かった」「教員の熱意が感じられた」が上位にあげられ，特に「授業がよく工夫され，教員の教え方がよかった」と回答した学生は8割近くいた。授業方法・授業内容が学生の理解度・満足度と関係のあることは既に述べてきたことであるが，特に授業方法が学生の理解や満足度に大きな影響を与えることを示唆している。また，はっきりとした受講目標を持っているため，学習動機が明確で，学習意欲の高いことが反映したものと考えられる。

受講態度や出席状況についてみると，受講態度，予習・復習の程度，教師への質問・相談の頻度，教師への相談希望率，出席状況のいずれも，一般教育科目が一番悪く，専門教育科目，教職関連科目の順に良くなっている。特に教職関連科目は他の科目と比較するとかなり良く，受講態度と出席状況は関連のあることを示唆している。その理由をみてみると，一般教育科目や専門教育科目においては上位にあがらなかった教職関連科目の特徴がある。それは，勉強方法における「教員に個人的に質問する」頻度の高さ，授業方法における「宿題・レポートの作成」「学生による発表や討論」および出席理由の中の「教員に対する好感」である。学生の勉強方法や教師の授業方法，教師の魅力が，受講態度や出席状況と関連の深いことを示唆している。

英語科の授業内容全般についてみると，一般教育科目および専門教育科目の「その他」に対する評価（関心度・有益性・必要性）が一般的に最も低く，専門教育科目の英語学・英米文学・英語コミュニケーションの評価がそれに続き，教職関連科目に対する評価が最も高い。これは，自我関与の高いものほど，学習意欲の持てるものほど，授業に工夫が凝らされているほど，また受講者数の

少ないものほど、評価の高いことを示唆している。しかし、評価の低い一般教育科目や専門教育科目の「その他」でも評価の高いものがあり、また一般教育科目・専門教育科目および教職関連科目に共通していることがある。それは、授業に対する理解度・満足度と授業方法・授業内容の関係が深いことである。学生にとって授業に対する興味・関心を増し、授業への理解や満足を高めるためには、教師の授業に対する工夫（教え方）や授業内容の選択が重要であることを示唆している。これは英語科の授業だけでなく、他の学科の授業に関しても同様のことが考えられる。それ故、今後自我関与や学習意欲が低く、受講者数の多い科目でいかに学習意欲を高め、授業の満足度・理解度を上げるかが課題といえる。1つの解決方法としては、「視聴覚教材の利用」を高め、「宿題・レポートの提出」を求め、教室での「学生による発表や討論」や「学生同士の共同学習」の機会を多くする、といった授業方法の改善が考えられる。

付 記

本研究に協力して戴いた別府昌記教授・市崎一章講師・西田次郎先生および学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

参考・引用文献

- 安藤寿康・福永信義・倉八順子・須藤毅・中野隆司・鹿毛雅治 1992 英語教授法の比較研究—コミュニケーション・アプローチと文法的・アプローチ— 教育心理学研究,40,247-256.
- Cronbach,L.J. 1975 Beyond the two disciplines of scientific psychology. *American Psychologist*, 30,116-127.
- 伊藤順啓 1991 短期大学の社会学 国際書院
- 兼子仁（編） 1996 教育小六法 学陽書房
- 倉八順子・安藤寿康・福永信義・須藤毅・中野隆司・鹿毛雅治 1992 コミュニカティブ・アプローチと学習意欲 教育心理学研究,40,304-314.
- 倉八順子 1993 コミュニカティブ・アプローチ及び外国人講師とのチームティーチングが学習成果と学習意欲に及ぼす効果 教育心理学研究,41,209-220.
- 倉八順子 1994 コミュニカティブ・アプローチにおける規則教授が学習成果及び学習意欲に及ぼす効果 教育心理学研究,42,48-58.
- 倉八順子 1995 グラマティカル・アプローチとコミュニケーション・アプローチが学習成果と学習意欲に及ぼす質的差異 教育心理学研究,43,92-99.
- 教務研究委員会（編） 1995 短期大学教務必携 日本私立短期大学協会
- 鈴木順和・大坪勝郎 1994 英語科学生の英語検定試験の受験状況に関する調査 宮崎女子短期大学紀要, 20,79-93.
- 鈴木順和・大坪勝郎・大塚稔 1997 英語科の授業内容に関する調査（Ⅰ）—一般教育科目について— 宮崎女子短期大学紀要,23,55-72.
- 地域科学研究会（編） 1995 短期大学の“改組転換” —その計画と実際— 地域科学研究会

[1997年11月29日受理]

(資料1)

質問事項

以下の質問事項について当てはまる番号に○印をつけてください。

II. 専門教育科目

Q9-1. 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

1) 英語学

- 1 英語学Ⅰ 2 英語学Ⅱ 3 英文法Ⅰ 4 英文法Ⅱ
5 英語音声学Ⅰ 6 英語音声学Ⅱ

2) 英米文学

- 1 英文講読Ⅰ 2 英文講読Ⅱ 3 英文演習Ⅰ 4 英文演習Ⅱ
5 英文演習Ⅲ 6 英文演習Ⅳ 7 英米文学史Ⅰ 8 英米文学史Ⅱ
9 英文学 10 米文学

3) 英語コミュニケーション

- 1 英語CommunicationⅠ 2 英語CommunicationⅡ
3 英語CommunicationⅢ 4 英語CommunicationⅣ
5 英語CommunicationⅤ 6 英語CommunicationⅥ
7 実務英語

4) その他

- 1 比較文化 2 時事英語Ⅰ 3 時事英語Ⅱ 4 言語学
5 児童英語教育 6 秘書概論 7 文書管理 8 実務法規
9 情報処理論 10 経営概論 11 言語表現法 12 秘書実務
13 簿記会計 14 マスコミュニケーション 15 現代メディア論
16 英文タイプⅠ 17 英文タイプⅡ 18 卒業研究

Q9-2. 受講した主な理由はどのようなものですか(3つ選択)。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
2 科目そのものに興味・関心があったから
3 講義内容が面白そうだったから
4 教員に好感がもてたから
5 人生や社会について考えさせてくれそうだったから
6 勉強すると将来役に立つと思ったから
7 大学でしか学べない科目だったから
8 先輩が受講するように勧めたから
9 最初に開講された選択科目だったから
10 必修科目で止むを得なかったから

- 11 単位が取りやすそうだったから
 12 筆記試験がなかったから、あるいは試験が簡単そうだったから
 13 その他 ()

<現在までに受けた専門教育科目についてのみ答えてください。>

Q10. 興味深く、面白いと感じた教科目について○印をつけてください。

1) 英語学

- 1 英語学Ⅰ 2 英語学Ⅱ 3 英文法Ⅰ 4 英文法Ⅱ
 5 英語音声学Ⅰ 6 英語音声学Ⅱ

2) 英米文学

- 1 英文講読Ⅰ 2 英文講読Ⅱ 3 英文演習Ⅰ 4 英文演習Ⅱ
 5 英文演習Ⅲ 6 英文演習Ⅳ 7 英米文学史Ⅰ 8 英米文学史Ⅱ
 9 英文学 10 米文学

3) 英語コミュニケーション

- 1 英語CommunicationⅠ 2 英語CommunicationⅡ
 3 英語CommunicationⅢ 4 英語CommunicationⅣ
 5 英語CommunicationⅤ 6 英語CommunicationⅥ
 7 実務英語

4) その他

- 1 比較文化 2 時事英語Ⅰ 3 時事英語Ⅱ 4 言語学
 5 児童英語教育 6 秘書概論 7 文書管理 8 実務法規
 9 情報処理論 10 経営概論 11 言語表現法 12 秘書実務
 13 簿記会計 14 マスコミュニケーション 15 現代メディア論
 16 英文タイプⅠ 17 英文タイプⅡ 18 卒業研究

Q11. 役に立った、為になったと感じた教科目について○印をつけてください。

1) 英語学

- 1 英語学Ⅰ 2 英語学Ⅱ 3 英文法Ⅰ 4 英文法Ⅱ
 5 英語音声学Ⅰ 6 英語音声学Ⅱ

2) 英米文学

- 1 英文講読Ⅰ 2 英文講読Ⅱ 3 英文演習Ⅰ 4 英文演習Ⅱ
 5 英文演習Ⅲ 6 英文演習Ⅳ 7 英米文学史Ⅰ 8 英米文学史Ⅱ
 9 英文学 10 米文学

3) 英語コミュニケーション

- 1 英語CommunicationⅠ 2 英語CommunicationⅡ
 3 英語CommunicationⅢ 4 英語CommunicationⅣ
 5 英語CommunicationⅤ 6 英語CommunicationⅥ
 7 実務英語

4) その他

- | | | | |
|------------|-----------------|------------|---------|
| 1 比較文化 | 2 時事英語 I | 3 時事英語 II | 4 言語学 |
| 5 児童英語教育 | 6 秘書概論 | 7 文書管理 | 8 実務法規 |
| 9 情報処理論 | 10 経営概論 | 11 言語表現法 | 12 秘書実務 |
| 13 簿記会計 | 14 マスココミュニケーション | 15 現代メディア論 | |
| 16 英文タイプ I | 17 英文タイプ II | 18 卒業研究 | |

Q12. 専門教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

1) 英語学

- | | | | |
|-----------|------------|---------|----------|
| 1 英語学 I | 2 英語学 II | 3 英文法 I | 4 英文法 II |
| 5 英語音声学 I | 6 英語音声学 II | | |

2) 英米文学

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|
| 1 英文講読 I | 2 英文講読 II | 3 英文演習 I | 4 英文演習 II |
| 5 英文演習 III | 6 英文演習 IV | 7 英米文学史 I | 8 英米文学史 II |
| 9 英文学 | 10 米文学 | | |

3) 英語コミュニケーション

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 英語Communication I | 2 英語Communication II |
| 3 英語Communication III | 4 英語Communication IV |
| 5 英語Communication V | 6 英語Communication VI |
| 7 実務英語 | |

4) その他

- | | | | |
|------------|-----------------|------------|---------|
| 1 比較文化 | 2 時事英語 I | 3 時事英語 II | 4 言語学 |
| 5 児童英語教育 | 6 秘書概論 | 7 文書管理 | 8 実務法規 |
| 9 情報処理論 | 10 経営概論 | 11 言語表現法 | 12 秘書実務 |
| 13 簿記会計 | 14 マスココミュニケーション | 15 現代メディア論 | |
| 16 英文タイプ I | 17 英文タイプ II | 18 卒業研究 | |

Q13. その他、専門教育科目として希望の教科目があれば () に書いてください。

()

<専門教育科目の理解度、習得度および満足度についてお尋ねします。>

Q14-1. 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目もよく理解できた
- 2 大部分の科目はよく理解できた
- 3 よく理解できた科目とできなかつた科目が半々くらいだった
- 4 特定の限られた科目しか理解できなかつた
- 5 ほとんどの科目がそれほど理解できなかつた

Q14-2. 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目も十分習得できた
- 2 大部分の科目は習得できた
- 3 習得できた科目とできなかった科目が半々くらいだった
- 4 特定の限られた科目しか習得できなかった
- 5 ほとんどの科目は身につかなかった

Q14-3. 授業内容の満足度はどの程度ですか。

- 1 どの科目も満足している
- 2 大部分の科目は満足している
- 3 満足している科目と満足できなかった科目が半々くらいである
- 4 特定の限られた科目しか満足しなかった
- 5 満足できる科目はほとんどなかった

Q15. 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容がやさしかった
- 2 授業が体系的で全体像がよくつかめた
- 3 教員の熱意が感じられた
- 4 授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった
- 5 人生や社会について考えさせてくれた
- 6 受講者数が適当で、気分が集中できた
- 7 授業内容が楽しく、興味深かった
- 8 科目そのものに興味・関心があった
- 9 将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった
- 10 大学らしい授業だった
- 11 単位が取りやすかった
- 12 筆記試験がなかった、あるいは試験が簡単だった
- 13 その他（ ）

Q16. 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容が難しかった
- 2 授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった
- 3 教員が熱心でなく不真面目であった
- 4 教員の教え方に工夫が足りなかった
- 5 人生や社会について考えさせてくれなかった
- 6 受講者数が多すぎて、私語が多く気分的に集中できなかった
- 7 科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった
- 8 科目そのものに興味・関心がなかった

- 9 勉強しても得るところがなかった
- 10 高校の授業内容のくりかえしであった
- 11 単位が取りにくかった
- 12 試験・レポート・宿題などが多かった
- 13 その他 ()

Ⅲ. 教職に関する専門教育科目

Q17. 教員免許を取得する予定がありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

「はい」と答えた方はQ18. 以下の質問に答えてください。

「いいえ」と答えた方はQ25. 以下の質問に答えてください。

Q18-1. 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

- 1 教育本質論 2 教育哲学 3 中等教育心理学 4 教育行政学
- 5 教育調査 6 教育方法論 7 表現教育論 8 英語科教育法
- 9 道徳教育論 10 特別活動論 11 教育相談 12 教育実習前後指導
- 13 教育実習

Q18-2. 受講した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
- 2 科目そのものに興味・関心があったから
- 3 講義内容が面白そうだったから
- 4 教員に好感がもてたから
- 5 人生や社会について考えさせてくれそうだったから
- 6 勉強すると将来役に立つと思ったから
- 7 大学でしか学べない科目だったから
- 8 先輩が受講するように勧めたから
- 9 最初に開講された選択科目だったから
- 10 必修科目で止むを得なかったから
- 11 単位が取りやすそうだったから
- 12 筆記試験がなかったから、あるいは試験が簡単そうだったから
- 13 その他 ()

<現在までに受けた教職に関する専門教育科目についてのみ答えてください。>

Q19. 興味深く、面白いと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------|-----------|-------------|
| 1 教育本質論 | 2 教育哲学 | 3 中等教育心理学 | 4 教育行政学 |
| 5 教育調査 | 6 教育方法論 | 7 表現教育論 | 8 英語科教育法 |
| 9 道徳教育論 | 10 特別活動論 | 11 教育相談 | 12 教育実習前後指導 |
| 13 教育実習 | | | |

Q20. 役に立った、為になったと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------|-----------|-------------|
| 1 教育本質論 | 2 教育哲学 | 3 中等教育心理学 | 4 教育行政学 |
| 5 教育調査 | 6 教育方法論 | 7 表現教育論 | 8 英語科教育法 |
| 9 道徳教育論 | 10 特別活動論 | 11 教育相談 | 12 教育実習前後指導 |
| 13 教育実習 | | | |

Q21. 教職の専門教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------|-----------|-------------|
| 1 教育本質論 | 2 教育哲学 | 3 中等教育心理学 | 4 教育行政学 |
| 5 教育調査 | 6 教育方法論 | 7 表現教育論 | 8 英語科教育法 |
| 9 道徳教育論 | 10 特別活動論 | 11 教育相談 | 12 教育実習前後指導 |
| 13 教育実習 | | | |

<教職に関する専門教育科目の理解度、習得度および満足度についてお尋ねします。>

Q22-1. 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目もよく理解できた
- 2 大部分の科目はよく理解できた
- 3 よく理解できた科目とできなかつた科目が半々くらいだった
- 4 特定の限られた科目しか理解できなかつた
- 5 ほとんどの科目がそれほど理解できなかつた

Q22-2. 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目も十分習得できた
- 2 大部分の科目は習得できた
- 3 習得できた科目とできなかつた科目が半々くらいだった
- 4 特定の限られた科目しか習得できなかつた
- 5 ほとんどの科目は身につかなかつた

Q22-3. 授業内容の満足度はどの程度ですか。

- 1 どの科目も満足している
- 2 大部分の科目は満足している
- 3 満足している科目と満足できなかった科目が半々くらいである
- 4 特定の限られた科目しか満足しなかった
- 5 満足できる科目はほとんどなかった

Q23. 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容がやさしかった
- 2 授業が体系的で全体像がよくつかめた
- 3 教員の熱意が感じられた
- 4 授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった
- 5 人生や社会について考えさせてくれた
- 6 受講者数が適当で、気分が集中できた
- 7 授業内容が楽しく、興味深かった
- 8 科目そのものに興味・関心があった
- 9 将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった
- 10 大学らしい授業だった
- 11 単位が取りやすかった
- 12 筆記試験がなかった、あるいは試験が簡単だった
- 13 その他（ ）

Q24. 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容が難しかった
- 2 授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった
- 3 教員が熱心でなく不真面目であった
- 4 教員の教え方に工夫が足りなかった
- 5 人生や社会について考えさせてくれなかった
- 6 受講者数が多すぎて、私語が多く気分的に集中できなかった
- 7 科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった
- 8 科目そのものに興味・関心がなかった
- 9 勉強しても得るところがなかった
- 10 高校の授業内容のくりかえしであった
- 11 単位が取りにくかった
- 12 試験・レポート・宿題などが多かった
- 13 その他（ ）

IV. 受講態度および出席状況

2) 専門教育科目

Q34. 専門教育科目におけるあなたの受講態度はどのようですか。

- 1 非常に熱心である
- 2 熱心なほうである
- 3 普通と思う
- 4 あまり熱心とはいえない
- 5 不熱心なほうである

Q35. あなたは専門教育科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

- 1 どの科目もよくやっている
- 2 大部分の科目でよくやっている
- 3 やっている科目とやらない科目が半々である
- 4 特定の限られた科目のみやっている
- 5 どの科目もあまりやっていない

Q36. 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか（複数回答可）。

- 1 教室で質問して理解に努める
- 2 教員に個人的に質問する
- 3 先輩や友人に教えてもらう
- 4 友人同士で議論する
- 5 参考書などを読んで調べる
- 6 気になるけれど、そのままほうっておく
- 7 気にもせず、そのままほうっておく
- 8 その他（ ）

Q37. あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

- 1 よく行く
- 2 時々行くことがある
- 3 たまに行くことがある
- 4 まったくない
- 5 行こうと思わない

Q38. あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いますか。

- 1 どの教員についても大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 2 多くの教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 3 特定の教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 4 多少は話し合いや相談をしたいと思うことがある
- 5 まったく思わない

Q39. 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

- 1 教員による講義や模範演技（体育など）
- 2 教科書や参考書等による自学自習
- 3 友人との共同学習
- 4 宿題・レポートの作成
- 5 学生による発表や討論を中心とする授業
- 6 視聴覚教材の利用
- 7 学生の実験・実習・実技中心の授業
- 8 その他（ ）

Q40. 専門教育科目の授業における出席状況を、ありのままに教えてください。

- 1 どの科目も9割以上の出席率である
- 2 どの科目も大体3分の2以上の出席率は守っている
- 3 中には3分の2未満の出席しかなかった科目もある
- 4 ほとんどの科目が3分の2未満の出席であった
- 5 どの科目もほとんど出席しなかった
- 6 よく覚えていない、自分ではわからない

Q41. よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
- 2 科目そのものに興味・関心があったから
- 3 講義内容が良かったから
- 4 講義内容が面白く、勉強が楽しかったから
- 5 教員に好感がもてたから
- 6 欠席するのが損であったから
- 7 出欠が厳しく取られたから
- 8 時々、試験や演習などがあったから
- 9 規則（3分の2以上の出席）があったから
- 10 他にすることがなかったから
- 11 その他（ ）

Q42. 欠席や遅刻をする主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強をあまりしようと思わないから
- 2 科目そのものにあまり興味・関心がなかったから
- 3 授業内容が難しかったから
- 4 授業内容に魅力がなかったから
- 5 勉強することが嫌いだから
- 6 教員が嫌いだから
- 7 出欠を取らないから
- 8 病気などで身体の調子が良くなかったから
- 9 アルバイトで忙しかったから
- 10 他にすることがあって忙しかったから
- 11 なんとなく、特に理由もなく
- 12 その他（ ）

3) 教職に関する専門教育科目

Q43. 教職に関する科目におけるあなたの受講態度はどのようなですか。

- 1 非常に熱心である
- 2 熱心なほうである
- 3 普通と思う
- 4 あまり熱心とはいえない
- 5 不熱心なほうである

Q44. あなたは教職に関する科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

- 1 どの科目もよくやっている
- 2 大部分の科目でよくやっている
- 3 やっている科目とやらない科目が半々である
- 4 特定の限られた科目のみやっている
- 5 どの科目もあまりやっていない

Q45. 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか（複数回答可）。

- 1 教室で質問して理解に努める
- 2 教員に個人的に質問する
- 3 先輩や友人に教えてもらう
- 4 友人同士で議論する
- 5 参考書などを読んで調べる
- 6 気になるけれど、そのままほうっておく

- 7 気にもせず、そのままほうっておく
- 8 その他 ()

Q46. あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

- 1 よく行く
- 2 時々行くことがある
- 3 たまに行くことがある
- 4 まったくない
- 5 行こうと思わない

Q47. あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いませんか。

- 1 どの教員についても大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 2 多くの教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 3 特定の教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 4 多少は話し合いや相談をしたいと思うことがある
- 5 まったく思わない

Q48. 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

- 1 教員による講義や模範演技（体育など）
- 2 教科書や参考書等による自学自習
- 3 友人との共同学習
- 4 宿題・レポートの作成
- 5 学生による発表や討論を中心とする授業
- 6 視聴覚教材の利用
- 7 学生の実験・実習・実技中心の授業
- 8 その他 ()

Q49. 教職に関する科目の授業における出席状況を、ありのままに答えてください。

- 1 どの科目も9割以上の出席率である
- 2 どの科目も大体3分の2以上の出席率は守っている
- 3 中には3分の2未満の出席しかなかった科目もある
- 4 ほとんどの科目が3分の2未満の出席であった
- 5 どの科目もほとんど出席しなかった
- 6 よく覚えていない、自分ではわからない

Q50. よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
- 2 科目そのものに興味・関心があったから
- 3 講義内容が良かったから
- 4 講義内容が面白く、勉強が楽しかったから
- 5 教員に好感がもてたから
- 6 欠席するのが損であったから
- 7 出欠が厳しく取られたから
- 8 時々、試験や演習などがあったから
- 9 規則（3分の2以上の出席）があったから
- 10 他にすることがなかったから
- 11 その他（ ）

Q51. 欠席や遅刻をする主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強をあまりしようと思わないから
- 2 科目そのものにあまり興味・関心がなかったから
- 3 授業内容が難しかったから
- 4 授業内容に魅力がなかったから
- 5 勉強することが嫌いだから
- 6 教員が嫌いだから
- 7 出欠を取らないから
- 8 病気などで身体の調子が良くなかったから
- 9 アルバイトで忙しかったから
- 10 他にすることがあって忙しかったから
- 11 なんとなく、特に理由もなく
- 12 その他（ ）